

福祉サービス第三者評価

〔令和5年度〕

評価結果報告書

株式会社MIRATZ
MIRATZ三郷中央第二保育園

評価機関 有限会社エテルノ

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>（理念）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未来の希望に向かって発展 ・向上する明るい元気な子供を育む ・心豊かなエコ環境と優しい地域社会に生き生きと共存する子供を育む ・みんなを親しみ愛し、太陽のように温かい心を持った子供を育む <p>（方針）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働く女性をサポートし、子どもがいても安定して働ける社会に寄与する価値ある組織を創造する ・未来を担う子どもたちの為に「AtoZ(=何から何まで)」お任せいただける組織を創造する ・地域の子育て家庭をサポートするために有益な情報交流 ・発信の役割を担う組織を創造する <p>（目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自在感を持ちながら、生き生きと自ら選び、考え、生き活きと遊びや生活を創造し実現する子 ・ともに生きること、ともにつくること、ともに育つことを大事にする子 ・感性豊かな子
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>（1）職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な意見を柔軟に受け入れ、相手の気持ちに寄り添える人材 ・相手の立場に立って物事を考え、状況に応じた対応ができる人材 <p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身が、乳児期の子どもたちにとって重要な人物であることの自覚を持ち、行動できること ・子ども一人ひとりの発達や思いを理解して、適切な関わりができること ・保護者とともに子どもの成長を共感し、ともに喜べること

調査対象

保育園に通っている園児18世帯19人に対して調査を行った。同一保育園に2名以上の園児を預けている場合には、年齢の一番低い園児に対して回答して頂いた。

調査方法

保護者にはウェブ調査回答用URLおよびQRコード、IDを配付して、回答をウェブ上で収集した。外国語世帯のみ調査票の直接郵送にて回収した。結果は選択式・自由記述式ともに園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。

利用者総数	19
利用者家族総数(世帯)	18
共通評価項目による調査対象者数	18
共通評価項目による調査の有効回答者数	12
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	66.7

利用者調査全体のコメント

総合的な感想として園に対する満足度は、「大変満足」50.0%、「満足」41.7%の計91.7%であった。

自由意見では、「日頃の様子を細かく伝えてくださり、子ども一人一人を尊重しながら対応して下さる様子が伝わってきます。」「小規模園なので子どもをしっかりみてくれます。自由に伸び伸びと園生活を楽しんでいると思います。」など、子どもや保護者への配慮など職員の対応、日常の保育などに対する感謝の声が多く寄せられている。向上または検討を望む意見としては、保護者とのコミュニケーションに関することや保育内容、職員の子どもや保護者への対応、設備に関する点など、回答者個々の考え方や気になる点が寄せられている。設問別では、「心身の発達」「興味や関心」「食事」「自然や社会との関わり」「保育時間の変更」「安全対策」「信頼関係」「接遇」「病気やけが」「気持ちの尊重」「プライバシーの保護」「保育内容の説明」などの17問中12問が80%以上の支持を得ており、50%を下回ったのは「不満や要望の対応」「苦情窓口」の2問である。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	12	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「毎日お散歩や、園内でも色々な遊びをしていただいで刺激になっていると思います」という声が多く寄せられていた。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	12	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	12	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	10	1	1	0
<p>「はい」の回答は83.3%、「どちらともいえない」の回答は8.3%、「いいえ」の回答は8.3%であった。</p> <p>自由意見では、「どんぐり拾いや虫を見せてもらったりなど、刺激的だと思います」「お水遊びや公園へお外遊びに行っていたいただきありがとうございます」という声が寄せられていた。</p>				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	10	1	1	0
<p>「はい」の回答は83.3%、「どちらともいえない」の回答は8.3%、「いいえ」の回答は8.3%であった。</p> <p>自由意見では、「ありがたいです」という声が寄せられている一方、「柔軟には対応してくれますが、職員によっては時間に対して言われることもあります」という意見が寄せられていた。</p>				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	11	1	0	0
<p>「はい」の回答は91.7%、「どちらともいえない」の回答は8.3%であった。</p> <p>自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。</p>				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	7	2	3	0
<p>「はい」の回答は58.3%、「どちらともいえない」の回答は16.7%、「いいえ」の回答は25.0%であった。</p> <p>自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。</p>				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	10	2	0	0
<p>「はい」の回答は83.3%、「どちらともいえない」の回答は16.7%であった。</p> <p>自由意見では、「相談しやすいです」「気になった事など聞いたりできるので安心します」という声が寄せられていた。</p>				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	9	2	0	1
<p>「はい」の回答は75.0%、「どちらともいえない」の回答は16.7%、「無回答・非該当」の回答は8.3%であった。</p> <p>自由意見では、「いつも綺麗な環境だと思います」という声が寄せられていた。</p>				
10. 職員の接遇・態度は適切か	11	1	0	0
<p>「はい」の回答は91.7%、「どちらともいえない」の回答は8.3%であった。</p> <p>自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。</p>				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	12	0	0	0
<p>「はい」の回答は100.0%であった。</p> <p>自由意見では、「丁寧に見てくれていると思います」という声が寄せられていた。</p>				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	9	3	0	0
<p>「はい」の回答は75.0%、「どちらともいえない」の回答は25.0%であった。</p> <p>自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。</p>				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	10	2	0	0
<p>「はい」の回答は83.3%、「どちらともいえない」の回答は16.7%であった。</p> <p>自由意見では、「個々を見ていただいていると思います」という声が寄せられていた。</p>				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	10	2	0	0
<p>「はい」の回答は83.3%、「どちらともいえない」の回答は16.7%であった。</p> <p>自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。</p>				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	10	2	0	0
<p>「はい」の回答は83.3%、「どちらともいえない」の回答は16.7%であった。</p> <p>自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。</p>				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	6	4	1	1
<p>「はい」の回答は50.0%、「どちらともいえない」の回答は33.3%、「いいえ」の回答は8.3%、「無回答・非該当」の回答は8.3%であった。</p> <p>自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。</p>				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	6	4	2	0
<p>「はい」の回答は50.0%、「どちらともいえない」の回答は33.3%、「いいえ」の回答は16.7%であった。</p> <p>自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。</p>				

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目		
サブカテゴリ-1			
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1		評点(〇〇〇〇)	
利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評価	標準項目		
確認済み	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		
確認済み	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		
確認済み	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		
確認済み	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		
サブカテゴリ-1の講評			
<p>市役所や子育て広場へのパンフレット設置で園の情報を広く提供している</p> <p>園の情報を掲載した三つ折りのパンフレットを用意し、市役所や園近隣の子育てひろば等に設置することで利用希望者への情報発信を行っている。このパンフレットには保育目標のほか、デイリープログラムや給食、地域とのつながりに関する園の方針や取組に関する記載もある。また、利用希望者にとって高い関心があると思われる入園手続きや慣らし保育の記載もある。さらに、運営企業の掲げる保育理念(事業運営方針)やロゴマークの持つ意味など、1枚のパンフレットを通じて園の情報を網羅的に伝えようとする園の姿勢がうかがえる。</p> <p>事業会社や園のホームページで企業のミッションや園の基本情報等を伝えている</p> <p>園の情報はパンフレットだけではなく、運営企業のホームページでも確認することができる。このホームページでは「働く女性をサポートし、子どもがいても安心して働ける会社へ」という企業メッセージから始まり、企業の掲げる使命やありたい姿、行動規範を知ることができる。また、園のページでは園の所在地や開園時間等のほか、SNSの公式ページを通じて園の日常の活動や行事の画像を観ることができる。このページはクラスごとに週数回の頻度で更新されており、直近では砂場遊びや公園での風揚げ、お正月行事の様子などが掲載されている。</p> <p>随時受け入れをしている園見学では第一園との同日日程の調整なども行っている</p> <p>園では見学を随時受け入れており、ホームページやパンフレットにも連絡先等を記載している。日程は利用希望者の都合に合わせてともに、同じ建物の1階にある系列の第一保育園も同日に見学できるよう調整することで希望者の利便性に配慮しており、今年度は9割以上の見学が第一園と同日に行われた。見学は約30分程度かけて行われており、園内各所の紹介に加え、持ち物や行事の説明、決まりごとの確認ののちに質疑応答の時間を設けている。また、見学は園長と主任が担うことで利用希望者の問い合わせや相談にその場で対応できる体制としている。</p>			

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		
確認済み	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		
確認済み	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		
確認済み	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		
確認済み	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		
サブカテゴリ-2の講評			
<p>3月の入園前面談を通じて重要説明事項や必要な持ち物等を詳細に伝え理解を促している</p> <p>3月に入園前面談を行い、基本的なルールや保育内容等の説明をしている。説明の際には保護者と園との認識の相違等が起こらないよう、入園のしおりや重要事項説明書等を読み合わせしながら確認するとともに、持ち物等については見本を見せながら説明することとしている。また、この面談の際に保護者の就業環境や子どもの様子等について聞き取りを行い、その内容を新入園児面談記録として職員間で共有している。特に、数年来の感染症対策でほかの子どもとの関わりの少なさを懸念する声も多いことから園でもその対応を優先課題としている。</p> <p>子どもや保護者の状況に応じた慣らし保育の設定で親子のストレス低減に努めている</p> <p>子どもが園生活に無理なくスムーズに慣れるよう、慣らし保育を設定している。期間は基本的に2週間としながらも、子どもの慣れ具合や保護者の就労の状況等に応じて時期の延長なども柔軟に行っている。また、保護者には予め、「園に慣れるための日程(慣らし保育)について」という書面を配布し、慣らし保育期間の日ごとの内容を伝えている。この書面では日ごとの年齢別クラスごとの利用時間のほか、給食や午睡、午後のおやつを始める日もおおよその目安として明記されおり、家庭と相談しながら進めていく旨も記載されている。</p> <p>転園先や卒園を迎えた保護者とのコミュニケーションで支援の継続に配慮している</p> <p>子どもや保護者に対する支援の継続を図れるよう、市役所や転園先には児童票の提出等で情報を引き継ぐこととしている。また、園で行っている写真の販売については、転居した家庭には転居先に手紙を配布している。転園や退園が決まった保護者が不安を感じている様子が見られる場合には、園から細やかに話しかけることを心掛けることで不安の解消に努めるとともに、退園者には任意でのアンケートを行っている。このアンケートでは退園理由や園利用に対する評価のほか、意見や要望を確認することで一層の支援の継続に取り組んでいる。</p>			

サブカテゴリ3

3	個別状況の記録と計画策定		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	12/12	
	評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を 個別のサービス場面ごとに明示している			評点(000)	
	評価	標準項目			
	確認済み	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している			
	確認済み	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している			
	確認済み	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている			
	評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している			評点(00000)	
	評価	標準項目			
	確認済み	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している			
	確認済み	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている			
	確認済み	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている			
	確認済み	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している			
	確認済み	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている			

評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	
確認済み	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	
確認済み	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	
確認済み	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	
サブカテゴリ-3の講評		
個別の月案や日々の連絡帳等で子どもの様子を記録し職員間での共有を図っている 園では月ごとに「個人計画・個別日誌」を作成し、前月の子どもの姿と当月のねらい、保育者の関わり・配慮を定め、週ごとの子どもの状況を一人一人まとめている。また、専用の連絡帳アプリを用いて、家庭での健康状態や機嫌、排便の有無等について確認するとともに、送迎時や面談等でも家庭での様子や保護者が気にしていることなどをヒアリングしている。これらの内容は職員専用の情報閲覧サイトや面談シートを通じて内容を確認するほか、その重要度合いによって職員会議や週会議での共有を進めている。		
今年度から始めた週会議等を通じて子どもや保護者の日々の状況の詳細把握に努めている 職員が一人で情報を抱え込むことなく、また保護者や子どもへの対応にばらつきが生じてしまうことを防ぐ等の目的の週会議を本年度より始めている。この会議は午睡の時間に行っており、子ども一人一人の日々の生活で起こっている共有すべき注意事項や家庭状況の変化から生じるとされる保護者へのケアの内容や事務連絡などが共有されている。これらの内容は週会議ノートに記録され、職員間で閲覧されるとともに、日々の共有事項をまとめた事務連絡ノートも毎朝出勤時に確認することで職員間での情報の抜け漏れを防いでいる。		
園内研修の拡充で多様化する保護者の育児に対する考え方の理解を促している 保護者の育児に対する考え方に寄り添うことが保護者の安心につながるというポリシーのもと、多様化する保護者の就業環境や育児に対する考え方の理解を深めるべく、園では職員会議や園内研修に取り組んでいる。特に、初めての子育ての初期段階にある保護者の支援を担う同園では、保護者の意向を尊重する範囲についても職員間での共通認識を図っており、原則は保護者の育児に対する考え方を受容するとしながらも、ほかの子どもに迷惑をかける等の行為については、その理由とともにわかりやすい言葉で冷静に叱ることを保護者にも伝えている。		

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している			評点(〇〇)
評価	標準項目		
確認済み	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		
確認済み	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
確認済み	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		
確認済み	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		
確認済み	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		
サブカテゴリ-5の講評			
<p>入園面談の際に個人情報使用同意書やSNS等への掲載承諾書に署名捺印を得ている</p> <p>子どものプライバシー保護については、入園前の面談の際にこの内容を説明し、保護者から個人情報使用同意書や子どもの映像や写真の使用に関する掲載承諾書を得ることとしている。それぞれの書面では子どもや保護者の情報利用に関する細かな取り決めがあり、個人情報使用同意書では緊急時における病院その他への機関に対する必要情報の提供や掲載承諾書では、保護者への配布物や園内の掲示板のほか、園のホームページやSNS等の掲載場所を定めている。掲載承諾書には、承諾有無の選択欄が用意されており、保護者の意向に沿える形式となっている。</p> <p>トイレのつい立や着替えの場所等の調整で子どもの羞恥心に配慮している</p> <p>園では、子ども一人一人の発達の違いを受け止めながら声掛けや対応を工夫することとしており、トイレトレーニング等では子どもたちの状況に合わせて取り組み、その状況を職員会議等で共有している。特にトイレトレーニングでは子どもの羞恥心にも配慮しており、子どもの目線で周囲が見えることの無いよう、つい立てや子ども用のドアを閉めるなどの対応をしている。ほかにも、室外はもちろんのこと着替えの際は保育室の中で行うことを徹底するなど、子ども一人一人の羞恥心に配慮した保育を行っている。</p> <p>園内ガイドラインの設定や各種研修を通じて虐待防止への理解を深めている</p> <p>行動推奨の一つに、「子ども一人一人に人権があることを理解し意識して、信頼関係のもとに、愛情をもって伝える・伝わるようにする。」と掲げ、その遵守に努めている。また、保育所等における虐待等の防止及び発生時の対応等に関するガイドラインを定め、不適切な保育や虐待等の考え方の共通認識を図り、日々の保育実践の振り返りや未然防止に向けた対応について職員間で確認をしている。ほかにも、職員間のグループディスカッションを重ねながら虐待防止についての理解を深める園内研修を行うなど、子どもの権利擁護に向けた取組を重ねている。</p>			

サブカテゴリ6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
	評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目	
	確認済み	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	
確認済み	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		
確認済み	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		
	評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	評点(〇〇)	
	評価	標準項目	
	確認済み	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	
	確認済み	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	
サブカテゴリ6の講評			
<p>園内業務に関するマニュアル類をファイリングし職員が確認できるようにしている</p> <p>児童福祉施設における業務継続ガイドラインや不適切な保育の未然防止及び発生時の対応についての手引きのほか、保育分野の業務負担軽減・業務の再構築のためのガイドラインなど、厚生労働省等の行政機関が発行するマニュアルや手引書を活用しながら、事業所業務の標準化に努めている。また、運営企業作成の感染症や危機管理等に関するマニュアルを整備し、園のリスクマネジメントに取り組んでいる。これらのマニュアルや手引書は種類別にファイリングされ、事務室のキャビネットに保管することで職員が適宜閲覧できる環境としている。</p> <p>保育力向上リーダーや地域貢献リーダーが中心となって保育内容の改善を進めている</p> <p>保護者からの要望や職員の発案による業務内容の確認は市役所所管課や運営企業本部への確認等を行いながら園内でマニュアル化され、職員会議でその内容を周知することとなっている。また、保育内容の継続的な進化のために、保育力向上リーダーと地域貢献リーダーがそれぞれ指名され、保育内容の見直しを図っている。この取組は毎年度、継続的に行われており、今年度は保育力向上リーダーが主体となって寒天や廃材などを用いた感覚遊びが取り入れられ、担当職員は園長や主任のアドバイスを受けながら、遊びの進め方を手順書に落とし込んでいる。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリ4	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	35/35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目			
確認済み	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている			
確認済み	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している			
確認済み	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している			
確認済み	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している			
確認済み	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている			
評価項目1の講評				
<p>子ども一人一人の現状の把握と、それに配慮した保育の実施を反映している</p> <p>園では、日常の保育を提供するうえで、子ども一人一人の現状(発達過程や生活環境等)は、日々の連絡帳のやり取りを通じて、子どもたちの日常生活や発達状況を把握している。また、週一回の会議での情報伝達や、保護者対応で得た情報をもとに、特記事項を事務連絡ノートに記録し、全職員で共有している。さらに、個人面談を通じて、保護者から直接子どもの様子や家庭環境についての情報を把握している。これらの情報は、子どもたち一人一人のニーズに対応した保育を提供するために、子どもの現状を的確に把握し、それに配慮した保育を実施している。</p> <p>子どもの興味と関心を尊重する環境設定に取り組んでいる</p> <p>園では、子どもが興味や関心を持って関われる環境を考え、制作の際には色画用紙を子ども自身が選択できるようにし、玩具も好きなものを選んで遊べるようにしており、子どもは自分の興味や関心に基づいて活動を選択している。また、1日の生活の中で、合同で過ごす時間も設けられており、担任だけではなく全職員と関わる時間がある。これにより、子どもたちは自身が安心できる職員を選んで関わることができ、より豊かな人間関係を築くことができる。</p> <p>子どもの多様性を尊重し、それぞれの子どもが安心して成長できる環境を提供している</p> <p>子どもの生活習慣や文化、年齢等による違いがあっても、お互いを尊重する心が育つような配慮や工夫面では、合同で過ごす時間や合同で散歩に出かけることがあり、自然と2歳児が1歳児のお世話をしたり、玩具を貸したりする姿が見られる。また、英語教室の体験を通じて、子どもたちは文化の違いを感じている。さらに、職員研修やセルフチェックの実施を通じて、職員は子どもに寄り添った対応ができるようになっている。これにより、子ども同士のトラブルが発生した際にも、子どもを受け入れ、適切な対応を行っている。</p>				

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目
確認済み	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している
確認済み	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している
確認済み	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している
確認済み	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている

評価項目2の講評

子どもの状況を把握し、その子に最適な保育を提供するための基盤を築いている

毎朝、子どもたちが登園する際に、保護者からの情報を丁寧に確認している点は評価できる。特に、体調についての確認を必ず行い、そのための確認シートを活用しているという取組は、子どもたちの健康管理に対する真剣な姿勢を示している。また、連絡帳の内容で気になることがあれば、追加で電話確認をするという徹底ぶりは、保護者とのコミュニケーションを大切に、子どもたちの安全を第一に考えている。さらに、保護者から得た情報をどのように一日の保育に反映しているかについても、具体的な視点から確認している。

子どもたちが生活に必要な基本的な生活習慣を身につけることを支援している

トイレトレーニングは、家庭での様子を考慮しつつ、一人一人に合わせて楽しんで取り組めるようにしている。これにより、子どもたちはストレスなく自然に排せつの習慣を身につけることができる。食育については、食事の意欲や喜びにつながるような活動を行っており、子どもたちは食事の大切さを理解し、食べることの楽しさを感じることができる。着脱しやすい衣服の用意を保護者をお願いしているという点も、子どもたちが自分で着替えることのできる環境となっている。子どもたちは自分で生活習慣を身につけることの喜びと自信を感じることができる。

子ども一人一人の一日の状況を保護者に直接伝えるためのさまざまな手段を探求している

園は連絡帳アプリを通じて、保育所は子どもたちの日々の様子を詳細に伝達している。これにより、保護者はいつでもどこでも子どもの状況を把握することができ、アプリを通じた情報共有は、保護者が忙しい中でも情報を確認できるという利点がある。さらに、インスタグラムを通じて子どもたちの写真を投稿し、保護者に見てもらっている。これにより、保護者は子どもたちの日常の一部を視覚的に捉えることができる。インスタグラムの活用は、保護者が子どもたちの日々の活動をより具体的に理解するのに役立っている。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目
確認済み	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている
確認済み	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している
確認済み	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している
確認済み	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている
確認済み	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている
確認済み	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している

評価項目3の講評

子どもは自分の興味や好みに基づいて活動を選び、自主性と自発性を育てている

自由遊びの時間帯には、子どもが好きな遊びを選べるように、数種類の遊びを用意している。一人遊びが好きな子どもがじっくりと遊びこめるように配慮している。他の子どもに興味がある子どもに対しては、仲介に入り、楽しく遊べるように支援している。個々の子どもへの配慮として、子どもの個性や遊び方を尊重しつつ、集中して遊びこめる環境を提供している。0～2歳児保育においては、身の回りのものに親しみ、様々なものに興味関心を持てるように、環境を工夫している。

言葉や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しむ環境を提供している

言葉の理解と発語の意欲の育成は、手遊びや絵本の読み聞かせ、季節の歌を歌うなど、多くの言葉に触れる機会を提供している。これにより、子どもたちは自然と言葉に親しみ、発語の意欲が育つように配慮している。特に0～2歳児保育においては、これらの活動を通じて、言葉の理解を深め、発語の意欲を育てることに重点を置いている。表現を楽しむ環境の整備は、子どもが音楽、身体による表現、造形などの様々な表現を楽しめるよう、物的環境・人的環境の整備にも配慮している。様々な感触遊びを通して、子どもが自分なりに楽しめるように工夫している。

子どもが身の回りの環境の変化を体験できるような戸外活動が行われている

園では季節に合わせて自然に触れ合えるように、散歩先を選んでおり、四季の移り変わりを直接体験し、自然の中での遊びを楽しむことができる。また、遊びの中や散歩中に、子どもたちが自然と気付けるように順番を守ることや戸外でのルールを伝えている。特に理解が難しい子どもには、その子に分かりやすい言い方で繰り返し伝えている。これにより、子どもたちは社会的なルールを自然に学び、他人との関わり方を理解することができる。子どもが身の回りの環境の変化を体験でき、社会的なルールを自然に学ぶことができるような戸外活動が行われている。

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	
確認済み	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	
確認済み	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	
評価項目4の講評		
<p>子どもが興味や関心を持ち自ら進んで取り組むことができるような行事に工夫が見られる</p> <p>行事の前の準備として、園内の装飾を行ったり、季節の歌を歌ったりして、子どもたちが行事に興味を持てるようにしている。これにより子どもたちは行事に対する期待感を持ち、自ら積極的に参加する意欲を育てている。保護者との協力は、事前に保護者と一緒に飾りつけを行うことで、子どもたちは行事への期待を持つとともに、保護者とのコミュニケーションも深めている。また、年齢に応じて、行事等の持つ意味を理解できるように工夫している。これにより、子どもたちは自分たちの経験を通じて、社会的な行事や文化を理解し、自己の成長につなげている。</p> <p>協力し合い、やり遂げる喜びを味わう行事の実践が行われている</p> <p>子どもたちが一つのことを協力し合い、やり遂げることの喜びや楽しさを味わえるような行事を計画し、実施している。縁日遊びの際に、第一園と協力して制作を行い、作り上げる喜びが味わえるようにしている。これにより、子どもたちは他の園と協力することの大切さを学び、自分たちの力で何かを作り上げる達成感を体験している。保育所では、子どもたちが協力し合い、やり遂げることの喜びや楽しさを味わえるような行事を計画し、実施している。これらの取組は、子どもたちが協力の大切さを学び、自己の成長を感じる機会を提供している。</p> <p>子どもの意欲を引き出すという観点から保護者の理解や協力を得るための工夫が見られる</p> <p>情報の伝達と共有は園だよりやクラスだよりで行事の開催や歌っている歌等を伝え、保護者にも家庭で一緒に楽しんでもらえるようにしている。保護者は子どもが園で何を学んでいるのか、どのような活動を楽しんでいるのかを理解することができる。行事の開催日の伝達については1カ月以上前に伝達している。これにより、保護者は行事に参加するための準備を十分に行うことができ、子どもの参加をサポートすることができる。さらに、保護者の理解や協力を得る際には、保護者の個別事情に対する配慮も行っている。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	
確認済み	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	

評価項目5の講評

保育時間の長い子どもがくつろぎ、安心して過ごせる環境を整えている
 保育所では、保育時間の長い子どもがくつろぎ、安心して過ごせる環境を整えるために、様々な工夫が行われている。家庭的な雰囲気の創出として、家庭的な雰囲気の中で落ち着いて過ごせるよう、ビデオの時間を設けてゆったりと過ごせるようにしている。これにより、子どもたちは自分のペースで過ごすことができ、長時間の保育でもストレスを感じにくい環境にしている。

長時間保育における子どものくつろぎと安心を支える取組が行われている
 子どもの感情への配慮として、不安になってしまう子どもに対しては、スキンシップを多くとり、安心できるようにしている。これにより、子どもたちは保育所での時間を安心して過ごすことができる。少人数での遊びの工夫面では、大人数の時と違い、少人数で楽しめる玩具を用意して気分を変えたり、飽きないようにしている。これにより、子どもたちは様々な形で遊びを楽しむことができ、長時間の保育でも新鮮さを保つことができる。

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	
確認済み	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	
確認済み	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	
確認済み	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	
確認済み	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	

評価項目6の講評

顔を見合わせながら楽しい時間になるよう食事時間の雰囲気作りに配慮している
 給食は室内の窓から日が入るところに机を並べて、子どもたちが顔を見合わせながらとるようにしている。また、1歳児クラスではいろいろな食べ物を見る、触る、噛んで味わう経験を通して自分で進んで食べようとするのを、2歳児クラスではいろいろな種類の食べ物を味わう、食生活に必要な基本的な習慣や鮮度に関心を持つことを目標としている。職員はこれらの目標を見定めながら日々の食事が楽しい時間になるよう、子どもたち一人一人に合わせた食材の刻み方や提供量を調整しつつ、声掛けも多くなるなどの配慮を重ねている。

栄養士と保育士が連携しながら適切な食事や保護者への情報提供に努めている
 園の栄養士も子どもたちの食事の様子をこまめに観察することで、保育士との認識の共有を図っている。また、毎月の給食会議では子どもそれぞれの喫食状況や成長段階に応じたメニューの詳細などをすり合わせており、野菜を美味しく食べられる味付けの工夫や誤嚥防止のための食材の変更などが行われている。毎月の給食日より子どもの食に関する保護者への情報提供を行っており、旬の食材や家庭でもできる食育の実践例の紹介のほか、今月のおすすめレシピのコーナーでは家庭でも作れる子どもたちの人気メニューの作り方も掲載されている。

夏野菜やきのこの栽培や近隣のパン屋さんとの協働等で様々な食育の機会を提供している
 食育の一環としてプチトマト等の夏野菜のプランター栽培や卓上キットを用いたキノコの栽培などを行っている。また、園近隣のパン屋さんの協力を得ながら、ハロウィンやクリスマスにはそれぞれの行事を模したパンを食べるなどの取組も見られる。ほかにも、ココアクリームをパンに塗るという食育にも挑戦しており、とろんとしたクリームの取扱いに苦戦しながらも集中しながらパンに塗る様子が園のSNSからもうかがえる。園ではこのような活動を通じて子どもの食に対する興味や関心を引き出しながら、食育の実践に努めている。

7	<p>評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>
評価	標準項目
確認済み	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している
確認済み	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている
確認済み	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている
評価項目7の講評	
<p>手洗いやうがいで清潔になる喜びを味わうことで子どもの健康への興味を喚起している</p> <p>保健の目標・方針を「毎日の保健活動は保育と一体となったもので、快い睡眠・おいしい食卓・活発な外遊び・豊かな室内遊び・順調な排泄など、健康を守り育てる上で、どれもとても大切です。」と定め、子どもたちが自身の健康や安全に楽しみながら取り組める環境設定に努めている。中でも日々の手洗いやうがいは力をいれ、水道に手洗いの手順を描いた絵を掲示して見ながら一緒に取り組んだり、2歳からはうがいも行っている。ほかにも、6月の虫歯予防デーや11月ごろからのインフルエンザ感染予防など時節に応じた取組も見られる。</p> <p>内科検診や歯科検診前アンケートで保護者と連携しながら適切な情報提供に努めている</p> <p>年度ごとの保健計画を定め、園医健康診断として内科検診と歯科検診をそれぞれ2回行っている。検診の際には事前に保護者向けのアンケートを行っており、嘱託医や歯科医師に対する質問を募っている。寄せられた質問には園から個別に回答するとともに、ほかの保護者にも共有が望ましい内容については園だより等で周知しており、こまめな爪切りや冬場の肌のケア、歯磨きの進め方などが紹介されている。ほかにも、園だよりで伝えきれない情報については、その内容が掲載されている冊子を園の入り口に設置し、要点を蛍光ペンで示すなどの工夫も見られた。</p> <p>保護者の感染症に対する理解促進と予防対策への協力依頼に注力している</p> <p>職員は園内研修等を通じて子どもの健康に関する知識を習得するとともに、保護者にもその情報を共有している。中でも感染症に対する理解促進と予防対策への協力依頼には注力しており、園内の感染症の発生状況を保護者に分かりやすいように掲示するとともに、感染症についての詳しい情報も同時に掲示している。また、書面の配布等も行っており、風邪症状の流行が見られた際には、2次感染の抑止策の通知が行われた。この通知では汚物処理の詳細が記されており、園での対応とその理由に加え、家庭での洗濯・消毒方法も詳細に説明されている。</p>	
8	<p>評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇〇)</p>
評価	標準項目
確認済み	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている
確認済み	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている
確認済み	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている
確認済み	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている
確認済み	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している
評価項目8の講評	
<p>日常のコミュニケーションや個人面談等で保護者の思いを汲み取り職員間で共有している</p> <p>子育てに対する考え方や就労環境等など、保護者それぞれの状況に応じた支援ができるよう、園では登降園時の会話や連絡帳でのやり取りのほか、個人面談等を通じて保護者とのコミュニケーションの充実に努めている。個別の配慮が必要な情報や保護者の思いなどは職員間で共有され、保護者が安心して子育てのできる環境づくりにつなげている。これらの内容は会議でも議題として挙げられ、保護者とすり合わせを行いながらの午睡時間の調整や送迎に関する保護者連絡の優先順位の確認など、きめ細かな対応を心掛けている様子が議事録からもうかがえた。</p> <p>親子行事や保育参加の実施で子どもの発達や育児などについて共通認識を図っている</p> <p>集団活動の中で自分の子どもの様子を見ることによる発見やほかの保護者との交流を促すことを目的に、親子行事や保育参加の機会を設けている。親子行事では遠足や体操などを行い、動物まわっこゲームやスポーツクラブでの親子体操などを行っている。親子行事では子どもの育ちへの気づきや保護者同士の交流が図れるよう、保育士は声掛けやプログラムの設計に取り組んでいる。また、保育参加では子どもの生活を直接見たのちに面談もっており、1日の参加数を1～2名に制限しながらもほぼ全家庭の保護者が参加する人気の行事となっている。</p> <p>クラスだよりの配信や保護者研修の開催検討を通じて保護者の養育力向上を目指している</p> <p>保護者の養育力向上のための親子行事や保育参加の取組に加え、園では個人面談やクラスだより等の配信を通じて子育てに関する情報を発信している。クラスだよりは毎月発行されており、日々の子どもたちの活動や育ちの様子、時節に応じた体調管理や発育段階に応じた着衣選びなどが紹介されている。また、自分の子どもの成長段階が分からないという保護者の声が多いことから、集団の中での子どもの育ちを理解するための研修の実施を検討しているなど、企業メッセージにもある、子育て基盤拡充に向けた様々な保護者支援に取り組んでいる。</p>	

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	
確認済み	2. 園の行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	
評価項目9の講評		
<p>地域の公園や土手への散歩や近隣店舗との交流で子どもの生活の幅を広げている</p> <p>園の近くにある公園には広々とした芝生広場や複合遊具があるほか、川沿いの土手では地域の住民や他園の子どもたちとも交流の図れる機会になっている。また、周辺の商店や公的機関等との関わりも深く、近くのパン屋とクリスマスと一緒に楽しんだり、消防署に散歩に行った際には消防隊員と手を振りあう様子もうかがえた。ほかにも地域の神社での七五三では子どもたちが一人ずつお参りをしたり、公的機関主催のハロウィンイベントに仮装して参加するなど、地域資源を有効活用しながら子どもたちの生活の幅を広げている。</p> <p>地域の子育て家庭への園内行事の招待で子どもが様々な人と交流できる機会を設けている</p> <p>縁日あそびを始めとする様々な園内行事に地域の子育て家庭の参加を促している。この行事では保育園に通っていない、0歳から満2歳の子どもの対象としており、園の子どもが普段合わない友だちとも交流の持てる機会となっている。また、ボランティアの受け入れも積極的に行っており、子どもたちは中高生と一緒に散歩やクラスでの生活を楽しむなど、園の職員や家族以外の大人たちや年齢の異なる学生との交流機会を設けているとともに、園の認知度を高め、地域との親交を深める取組にもなっている。</p>		

Ⅲ 利用者保護に関する項目

利用者保護に関する項目		標準項目実施状況	9/9
1 評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
確認済み	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		
確認済み	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		
2 評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
確認済み	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		
確認済み	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		
3 評価項目3 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点(〇〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
確認済み	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている		
確認済み	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている		
確認済み	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している		
確認済み	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる		
確認済み	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる		
利用者保護の講評(※利用者保護の内容から3つ(必須)記載してください)			
<p>苦情解決制度を設け園のしおりや重要事項説明書等を通じて保護者に周知している 保育内容に関する相談・苦情への受け付け担当者を園の主任、解決責任者を施設長に定めているほか、第三者委員として子育て支援士を任命し、園のしおりや重要事項説明書等で保護者に伝えている。また、これらの書類には三郷市役所すこやか課の連絡先も記載するとともに、園の利用に際し、気づいた点や意見等があった際には気軽に問い合わせしてほしい旨の記載もある。園では本制度の継続的な周知が重要と考えており、繰り返しの説明や面談等での紹介も考えている。</p> <p>職員への研修や日々子どもへの視診などにより虐待の防止と早期発見に努めている 子どもの気持ちを傷つけるような言動が無いよう、園内研修の実施や保育者のチェックリスト活用のほか、運営企業の掲げる行動規範でも子どもの叱り方や、やってはいけないことを明文化している。また、虐待の疑い等への対応力を高めるため、日ごろから着替え時の身体の視診を行うほか、保護者支援や子育て支援に関する学習や地域の相談機関の確認を行っている。保護者とのコミュニケーションにも注力しており、日々の会話から変化を感じた際には速やかに会議等で報告し、園全体でその保護者を気を付けて見ながら、悩み等にも寄り添うようにしている。</p> <p>運営企業や市役所と協働しながら園のリスクマネジメント体制を強化している 自然災害については市のハザードマップを基に、運営企業の定める基本方針に沿った対策を講じている。また、市役所とも相談しながら事業継続計画を策定しており、感染症の発生等を想定しながら、最優先事項やBCPの主管部門などを定めている。安全管理と事故防止の取組は保護者にも周知されており、園のしおりには安全な保育環境のための職員の取組や専門業者による定期点検のほか、避難訓練や防犯訓練の実施等があげられている。また、子ども自身が自らの安全確保ができるよう、散歩時の歩き方等の安全指導を行う旨も記載されている。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル①	多様化する就業環境や子育て観に応えるべく保護者とのコミュニケーションを深めている	
内容①	運営企業のメッセージに「女性活躍社会」「女性の能力拡大」「子育て基盤の拡充」を実現することで「真に社会に必要とされる会社を目指していきます」と掲げ、子育てや発達に関しての保護者の考えの多様性に沿った支援に力を入れている。園では、保育参加や親子行事の拡充のほか、随時受け付けている個人面談の実施で保護者とのコミュニケーションを深めている。また、保護者が自分の子どもの育ちについての理解をより深められるよう、同じ建物にある系列園と合同での保護者向け研修を検討するなど、保護者の養育力向上に努めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-6-2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直し取り組みをしている
タイトル②	保育力向上リーダーと地域貢献リーダー制度により保育内容を継続的に進化させている	
内容②	園での保育内容を継続的に進化させることができるよう、保育内容と地域貢献のあり方を見直すリーダーをそれぞれ任命している。リーダーは1年の任期でそれぞれのテーマに沿った活動をしており、年間計画を策定しながら保育と地域貢献の充実に努めることとなっている。保育力向上においては「感覚遊び」をテーマに取り組んでおり、寒天や廃材を使った新たな遊びを取り入れるなどして保育内容の充実を図っている。これらの内容は園長や主任のアドバイスを受けながら手順書等に落とし込まれることで、園の知見として積み重ねられている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	園行事への子育て世帯の招待や近隣商店とのつながりのほかボランティアの受け入れなどを通じて地域との深い関わりを築いている
	内容	「地域と一体となって子育て家庭をサポートする」という企業ミッションや「地域で最も貢献する愛される組織」というビジョンにある通り、園では様々な面で地域との交流を深めている。その取組は多岐に渡っており、地域の0～満2歳の子育て家庭を招待しての縁日遊びや園の子どもたちと遊び、給食を食べる保育体験のほか、近隣のパン屋ではハロウィンやクリスマスイベントをともに楽しんでいる。一方で、中高生のボランティアの受け入れでは普段交流機会の少ない年齢の学生たちと一緒に過ごすなど、地域との関わりが子どもの貴重な体験にもなっている。
2	タイトル	子どもが戸外でたくさん身体を使って遊ぶことや様々な自然に触れ興味や関心、感性が育まれるよう散歩にたくさん出かけている
	内容	日々大きくなっていく子どもたちが戸外で外気に触れ、身体をたくさん使って遊べるように散歩を多く取り入れている。滑り台、ブランコ、鉄棒など固定遊具を使った遊びや土手や広場で走ること、傾斜を登ったり下りたり滑ったりして自然の中で様々な身体を使って遊べるようにしている。シャボン玉や凧を使った遊びで風を感じ、花や葉っぱ、落ち葉や木の実などで季節を楽しめるようにしている。園内ではミニトマトやキノコの栽培をしたり、窓から飛行機を見たり雨の音を楽しむなど自然を取り込んだ保育を行い子どもの興味や関心、感性を育てている。
3	タイトル	主体性を大切にする保育や環境など、職員が今必要と考えていることが学べる環境を作り保育の質の向上に繋げている
	内容	園は「職員が最も輝ける組織」をビジョンの一つに掲げ子ども一人一人の発達や思いを理解して適切な関わりができることに力を入れて取り組んでいる。園内研修や外部講師を呼んだ研修を実施し職員が積極的に学ぶ環境を整えている。順番にキャリアアップ研修を受講し園全体と職員個々のスキルアップに繋げている。職員自ら学ぶ姿勢を大切に職員が学びたいテーマの保育書や資料をいつでも活用できるよう整えている。職員が収集した情報を会議に活用するなど職員の主体性や意欲を大切に、個々の学びが園の質の向上に繋がるよう取り組んでいる。
No.	今後の課題と思われる点	
1	タイトル	園内業務の標準化を目的に整備されているマニュアルや手引書等の更なる閲覧性向上が期待される
	内容	園では運営企業による事故防止や食物アレルギー対応等のマニュアル類を整備するとともに、児童福祉施設における業務継続ガイドラインや体罰などによらない子育ての推進に向けた実態把握に関する調査などの行政機関等が発行する手引書等を活用しながら事業所業務の標準化に努めている。これらの手引書やマニュアル類はハードカバーのファイルに整理され、事務室のキャビネットに一括で保管されているが、職員の閲覧性には課題が見られる。手引書等の確認が必要となるシーンや必要情報の携帯性などにも考慮したこれらの閲覧性向上が期待される。
2	タイトル	1日の過ごし方や入園前後の進め方など利用希望者に対するホームページ掲載情報の一層の拡充が望まれる
	内容	園のホームページは運営企業が一括管理しており、系列園も共通のブランドページは企業メッセージや事業所一覧のほか、各園の福祉サービス第三者評価の結果公表など、掲載コンテンツが大変充実している。一方で、園のページには住所や開園時間、提携医療機関のほか、日々の生活の様子をSNSに掲載しているものの、デイリープログラムや入園に関する案内は園並びに園近隣の公的機関に設置されているリーフレット等で確認する環境になっている。利用希望者にとっての情報収集のしやすさから、園ホームページの一層の情報拡充が望ましいと考えられる。
3	タイトル	子どもの主体的な遊びの様子を記録するなど子どもの遊びの持つ意味の理解を図り保育の質の更なる向上に繋げることに期待したい
	内容	園は「自在感を持ちながら生き生きと自ら遊び、考え、生き活きと遊びや生活を創造し実現する子」を保育目標の一つとし、好きな玩具を自分で選んで遊べる環境作りや制作物の色を選択するなど子どもが選ぶことを大切に保育を行っている。様々な活動を用意しいろいろな経験が持てるようにしている。子どもは偶然見つけた不思議なことに興味を示しいろいろな関わりの中で物の性質や仕組みなどを知っていく。主体的な遊びを記録するなど子どもの遊びが持つ意味の理解を図り職員の学びや更なる保育の質の向上に繋げていくことに期待したい。